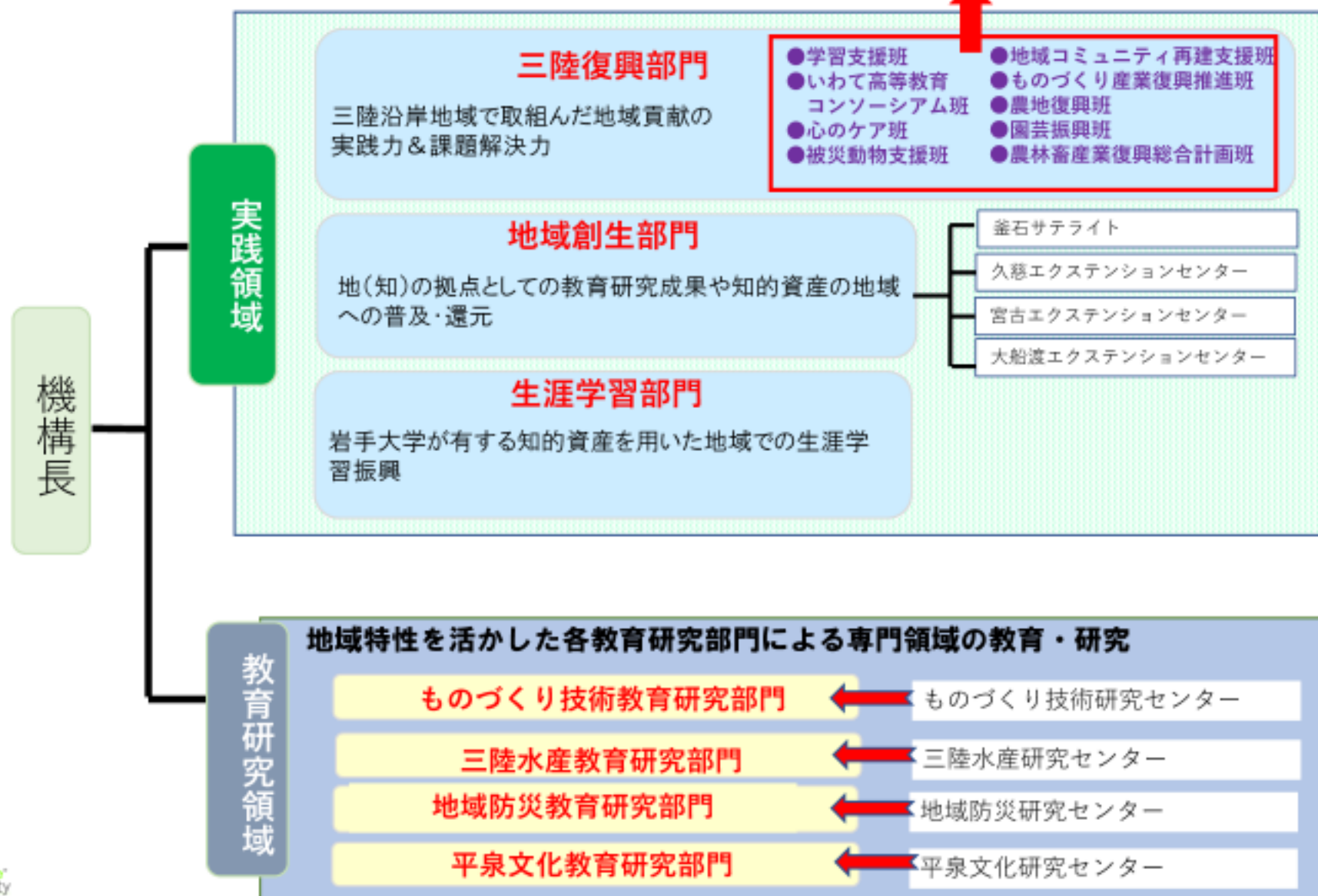


令和2年度から新たな展開へ



地域創生モデル構築活動支援プロジェクト

震災発災から9年以上が経過し、①それぞれの活動成果を地域の持続的発展に活かす取り組みに移行する段階にきていること、②岩手大学に求められる地域ニーズが変化していること、③更には活動が続けてきた教員が定年退職等によってその取り組みが減少していることを踏まえ、現在の地域ニーズと研究シーズがてきマッチングした取り組みを重点的に支援する制度

☞活動成果は、自立的、持続的な地域の活動につなげる

	代表者	採択課題
1	農学部 真坂一彦 教授	いわての漆産業の発展に資する生漆生産技術の高度化（新規提案）
2	農学部 松嶋卯月 准教授	農業者と大学人が交流するWebセミナーの仕組みづくりとそれを活用した三陸地域の農業振興（旧園芸振興班の活動を踏まえた提案）
3	人文社会科学部 佐々木誠 准教授	被災地における心のサポート及び継続的な支援基盤の構築を目的とした講演活動とカウンセリング活動の実践（旧心のケア班の活動を踏まえた提案）
4	人文社会科学部 杭田俊之 教授	地域住民の主体性醸成による地域コミュニティ支援（旧地域コミュニティ再建支援班の活動を踏まえた提案）
5	地域防災研究センター 福留邦洋 教授	防災学習施設「いのちをつなぐ未来館」を拠点とした地域防災教育の展開に関する実践的研究（新規提案）
6	教育学部 菊池洋 准教授	学校安全教育プログラム「岩手モデル」の構築と全世界への情報発信（旧学習支援班の活動を踏まえた提案）